

2016 >> 2019

～平田学区住民福祉活動計画～

平田おひさまプラン

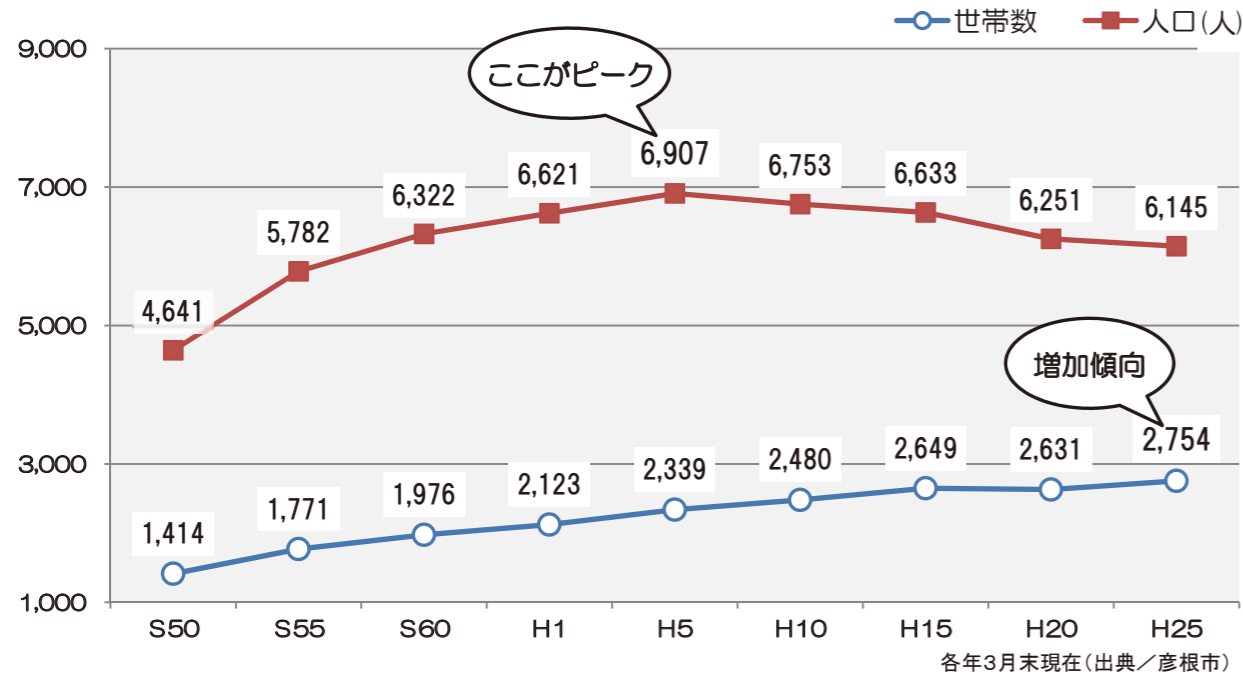


プラン名の「おひさま」は、平田幼稚園園歌や、平田小学校校歌、同小学校の「太陽の子 平田っ子」から、明るく、元気で、あたたかい地域になること願い名付けられました。

この計画は 2016 年度(平成 28 年度)から 2019 年度(平成 31 年度)の間で取り組みを進めます。

数字で見る平田学区の移り変わり

世帯数については増加傾向にあるものの、人口は平成5年を境に減少しています。時代の移り変わりによる生活様式の変化とともに、核家族化や単身化が進んでいることが考えられます。



数字で見る平田学区の“今”

《人口の構成》

(平成28年1月末現在)

	0～4歳	5～19歳	20～39歳	40～64歳	65歳以上	合計
人数	199人	792人	1,466人	1,986人	1,617人	6,060人
構成率	3.3%	13.1%	24.2%	32.8%	26.7%	

※四捨五入の関係上100%になりません。

出典/彦根市

《世帯数や高齢化率等》

(平成28年1月末現在)

世帯数	2,807世帯	高齢者のみの世帯数	318世帯
高齢化率	26.7%	1人暮らし高齢者数	376人

出典/彦根市

平田おひさまプラン (平田学区住民福祉活動計画)

策定：平田学区住民福祉懇談会

編集・発行：社会福祉法人彦根市社会福祉協議会

〒522-0041 彦根市平田町 670 彦根市福祉センター別館 1 階

【でんわ】(0749)22-2821 【ファックス】(0749)22-2841

【ホームページ】<http://www.hikone-shakyo.or.jp>



←
こちらから
HPをご覧
いただけます

平田川沿い桜の通り抜け



写真提供:「平田川沿いに桜の通り抜けを造る会」



みんなにお伝えしたい
「平田学区の歴史」

50年前の平田学区は、「平田」の名のとおり地域のほとんどを田んぼが占めており、旧来の集落以外に住宅は無く、馬車が土砂を運搬していました。また、平田川には水車もありました。

通称「八丁目通り」、「ベルロード」が南進するとともに地域はみるみる発展して現在の形となり、西暦2000年を記念して植えられた平田川沿いの桜は、毎年華やかに咲き乱れるまでに成長しました。



▲1972年(昭和47年)当時の平田学区(出典:国土地理院)

【計画の推進期間】
H28年度～H31年度

平田学区 住民福祉活動計画

平田おひさまプラン

策定までのあゆみ

計画の作成にあたり、平成26・27年度において計9回の懇談会を開催しながら、学区内の課題や今後必要と思われる取り組みを話し合ってきました。「こんな学区にしたい」という思いが詰まった計画ですが、地域の特性や課題は異なるのが実際です。この計画が1つの指針となり、それぞれの地域で、具体的な行動につながっていくことを願っています。

基本理念

① とりひとりが輝き
② くらくつながる
③ たのしいまち 平田

夏まつり



長曾根南

平田鳴宮天満宮の香祭り



平田

夏まつり



西平田

三世交代



大沢



和田

健康長寿「金龜体操」

5自治会(町内会)の
“つながり” 場面

《活動目標1》

ひと声かけて、気にかけて つながりをつくろう

①住民同士が地域の課題を話し合う場をつくろう



②団体同士の情報交換を行い、連携した取り組みの実現や活動が活発になるための話し合いの場をつくろう

③行けば誰か居る、何かある。“気軽に”
集まれる多様な場をつくろう
(ふれあいサロン・地域文庫・世代間交流 等)



《活動目標3》

たくさんの地域のリーダーが育ち、 次々にバトンが渡されるまちをつくろう

①子どもたちが参加しやすい活動と場所づくりをすすめよう
(子どもたちの平田“愛”を育む)

②集まりの中からリーダーが育つまちづくりをすすめよう

③「ありがとう」「お世話さま」「おつかれさま」の気持ちを言葉にしよう



《活動目標2》

縁をつないでサポートできる 「平田の便利屋さん」をつくろう

①つながりを活かし、思いのある人たちの支え合い活動を進めよう

②“気になる人”や“支援が必要な人”への声かけ・見守り活動に取り組もう

③生活のちょっとしたお手伝いができる
「サポート隊」をつくろう
(ゴミ出し・電球の交換 等)



それぞれの目標を実現するために、
話し合う・充実するための「場」が必要です。